

## こぼれ話22

### 佐藤隼人と上人塚

佐藤隼人は、美濃国武儀郡八幡村（岐阜県関市）から永禄年間（1558～1570）に日野に土着して庄屋（名主）となり、落武者や野武士を追い払って人々を助けたといえます。「新編相模風土記稿」には、引治二年（1556）に斉藤道三が斉藤義龍に討たれたとき、美濃を離れて東国へ来た津久井佐野川（相模原市）の佐藤才兵衛、牧野（同市）の佐藤一学と共に、日野の佐藤隼人の名があります。隼人の子孫は「上の名主」と呼ばれました。

永禄元年（1558）に小田原北条氏が日野市域を支配下に治めると、佐藤隼人は永禄十年（1567）に北条陸奥守（氏照）から罪人をもらい受け、多摩川の水を日野へ引く用水路を掘らせました。あわせて滝山城へ通じる道も整備しました。この用水は日野の田畑を潤しただけでなく、東光寺村では飲み水になりました。これらは、元禄十六年（1703）の「挨拶目録」、延享二年（1745）の「目録」という古文書に書かれています。

日野自動車構内（日野台三丁目）には、「上人塚」という直径三〇メートルあまりの塚があります。この塚は、前途「挨拶目録」によれば、佐藤隼人に関する由来書を埋めた場所とされ、貞享元年（1645）三月の「日野町有形絵図」にも「請人塚」として登場します。平成十九年に発掘調査をしたところ、盛土の下に黒色土で築かれた旧塚があり、古墳ではないことがわかりました。



整備された上人塚(日野市指定史跡)